



感染症予防接種プログラム

スピーカー：ミンチェ・リユー。
台北市



概要

- 1) 小児の定期予防接種
- 2) インフルエンザワクチン
- 3) COVID-19ワクチン
- 4) 肺炎球菌ワクチン
- 5) ロタウイルスワクチン
- 6) エンテロウイルス71ワクチン
- 7) 帯状疱疹ワクチン

1.小児定期予防接種：スケジュール

公費による小児定期予防接種：9種類、合計19回



1.小児定期予防接種：現在の課題

課題

出生率の低下と小児医療資源の減少



全国の小児科クリニック数が過去5年間で約3%減少。この傾向が続くと、保護者にとっての小児予防接種サービスの利便性とアクセス性が直接的に損なわれることになる。

公衆衛生従事者の高い離職率



- 過重労働となっている主要医療機関ではスタッフの離職率が高く、実務経験の継承が妨げられている。
- 新任職員は、ワクチン管理、予防接種に関する専門知識、およびNIISの操作などについての研修を受ける必要があります。

1.小児の定期予防接種：戦略

プロアクティブなスマートリマインダー



接種予定日の7日前に、自動SMSシステムまたはEメールを通じて、保護者に対し医療機関での予防接種を促すリマインド通知を送信する。

リマインドシステム



各地区での実施：12の地区保健センターが、はがき、Eポスト、および電話を通じて、保護者へのリマインドを行う。
プレスリリース:4月から7月まで。

ハイリスク症例の管理



入国者追跡：入国時に健康情報を提供する。
支援が必要な子どもへのケア：複数回の勧奨後も未接種のままの子どもを特定し、必要なケアを提供する。

協カインセンティブの強化

医療機関によるサービス提供を促進するため、中央政府の補助金は2026年より、1回あたり100台湾ドルから200台湾ドルに増額された。さらに、台北市政府が独自に100台湾ドルを上乗せしたことで、補助金総額は1回あたり300台湾ドルとなる。

専門性の向上

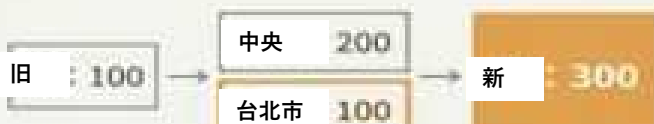


- 専門性の向上：
- 教育・研修：ワクチン管理、NIISの運用、およびハイリスク症例の特定に携わる職員に対し、防疫に関する専門研修を実施する。
 - 事例共有：予防接種率の高い保健センターを招き、効果的な受診勧奨戦略を共有するための事例共有会を実施する。

新生児をB型肝炎から守る



B型肝炎陽性の母親から生まれた新生児が、出生後24時間以内にHepBワクチンを確実に接種・投与されるようにする。



1.小児定期予防接種：結果

97.89%

定期予防接種率（3歳未満）

97.45%

定期予防接種率（6歳未満）



2.インフルエンザワクチン：施策概要

10月1日から 第1段階

- 65歳以上の高齢者
- 55歳から64歳の台湾先住民
- 長期介護施設の入居者と職員
- 妊婦
- 医療従事者および防疫担当者
- 学生
- 幼稚園の職員、保育施設の専門職員、在宅保育者（乳母）
- 6か月未満の乳児の親
- 生後6か月以上の乳幼児
- 基礎疾患のある生後6か月以上の人
- 家禽・畜産従事者、動物疫病予防担当者

11月1日から 第2段階

- 高リスク因子のない50～64歳の成人

2.インフルエンザワクチン：現在の課題



44.38%

高齢者の予防接種率（前年同期比4.9%増）

主な原因

1 ブランドへの不信感

特定のワクチンブランドに対する懸念が、予防接種へのためらいや拒否につながっている。

2 ワクチン疲れ

近年、市民はCOVID-19ワクチンを複数回接種したことで、接種を促す情報に対するメッセージに対する疲労感が生じている。

2.インフルエンザワクチン：広報戦略



地下鉄広告

- MRT車内広告、MRTライトボックス、台北MRTビデオウォール

映像・音声による広報

- ポッドキャスト、ショート動画、ラジオ

ワクチン接種くじ引き大会

- くじ引き大会を3回実施し、合計449人が当選

メディア露出

- ワクチン接種記者会見に関する電子メディアでの報道：15件

2.インフルエンザワクチン：地域ワクチン接種システム



完全デジタル化

従来の紙ベースの記録に代わり、タブレットとカードリーダーを導入した。



リアルタイム検証

NIISと統合することで、ワクチン接種の資格を即座に確認し、市民の待ち時間を短縮する。



実施効果

1. 効率性の向上：事前登録の時間を短縮し、現場での受付を効率化した。
2. 安全管理：重複接種を防止する。
3. 高い利用率：地域ワクチン接種ステーションの利用率は**99%超**に達した。

2.インフルエンザワクチン：結果（2026年1月12日現在）



 地域接種会場：753回実施 / 132,766人接種

 学校接種会場：297回実施 / 学生172,835人接種

 医療機関：194回実施 / 9,312人接種

 MRT駅：19回実施 / 2,039人接種



3.COVID-19ワクチン：施策概要

アプローチを「一斉接種」から、ハイリスク群に重点を置いた「リスクに応じた接種」へと移行

優先グループを対象とし、段階的に一般市民へ拡大



COVID-19ワクチン接種



第1段階

2025年10月1日

インフルエンザワクチンと同時接種（左腕：インフルエンザ、右腕：コロナ）

10種の高リスクグループには、65歳以上の高齢者、医療従事者、妊婦、生後6か月未満の乳児の保護者などが含まれる。

一般の人

2026年1月1日から2月28日まで

旧正月の帰省ラッシュ
および呼吸器系感染症の流行期に対応
接種対象を、生後6か月以上のすべての人に拡大

1

2

3

第2段階

2025年11月1日

対象：高リスク要因のない
50～64歳の成人
ワクチン接種の対象を
中年層に拡大

□ ワクチンの選択

- ・ 接種可能なワクチン：モデルナLP.8.1およびノババックスJN.1
- ・ 12歳以上：モデルナLP.8.1またはノババックスJN.1
- ・ 生後6か月から11歳：モデルナのみ

3.COVID-19ワクチン：現在の課題



パンデミック後の社会的課題への取り組み

ワクチン疲れ

国民は複数回の追加接種に疲れており、一般的にCOVID-19をただの風邪と認識しているため、パンデミックの初期段階と比較して、予防接種を受ける意欲が大幅に低下している。予防接種への意欲を再び喚起する必要がある。

誤情報による混乱

ソーシャルメディア上で「新たな変異株に対する防御」や「長期的な副作用」に関する懸念が根強く残り、国民の信頼を損ない、ワクチン接種へのためらいや「様子見」の姿勢につながっている。

低リスク群における無関心

健康な成人の間では重症化リスクが低いとの考えが広まっているため、予防接種の拡大に対する抵抗が生じており、社会的責任に関する情報発信を強化する必要がある。

予防接種の課題を克服するために必要な3つの戦略：
的確な情報伝達、利便性の高いサービス、継続的な啓発活動

3.COVID-19ワクチン：広報と接種勧奨

「的確なマーケティングと利便性の高いサービスの融合」

「左腕にインフルエンザ、右腕にコロナ」同時接種の推進

「左腕にインフルエンザ、右腕にコロナ、安心も2倍に」というスローガンのもと、1回の受診での同時接種を推進しています。これにより、複数回の通院による負担を軽減し、予防接種の効率化を図ります。

視覚的に分かりやすい広報用インフォグラフィック

年齢層ごとに接種対象となるワクチンの種類がひと目でわかるインフォグラフィックを作成。

多様な広報チャネルと異業種連携

高齢者が多く居住する地域において、MRT（地下鉄）広告やゴミ収集車によるアナウンス、地区事務所などを活用し、地域での予防接種を推進する。

利用しやすい予防接種ステーション

MRT駅や大型スーパーマーケットに予防接種ステーションを設置するほか、介護施設への集団接種サービスも提供し、移動にかかる費用や時間の負担を軽減する。



The infographic features a central illustration of a family (mother, father, and child) and a doctor, with a large pink bubble containing the text '接種新冠疫苗' (Vaccinate with COVID-19 vaccine). Below this, it states '降低重症及死亡風險' (Reduce the risk of severe illness and death) and '擴大接種對象' (Expand vaccination targets). At the bottom, a white box contains the following information:

新冠疫苗擴大全民接種
【活動期間】自 115 年 1 月 1 日起至 2 月 28 日止
【接種對象】出生滿 6 個月以上・且自 114 年 10 月 1 日後尚未接種過新冠疫苗之民眾。
【疫苗廠牌及適用對象】
莫德納LP.8.1疫苗：適用於年齡滿6個月以上。
Novavax JN.1疫苗：適用於年齡滿12歲以上。
【接種地點】臺北市新冠疫苗接種合約醫療院所

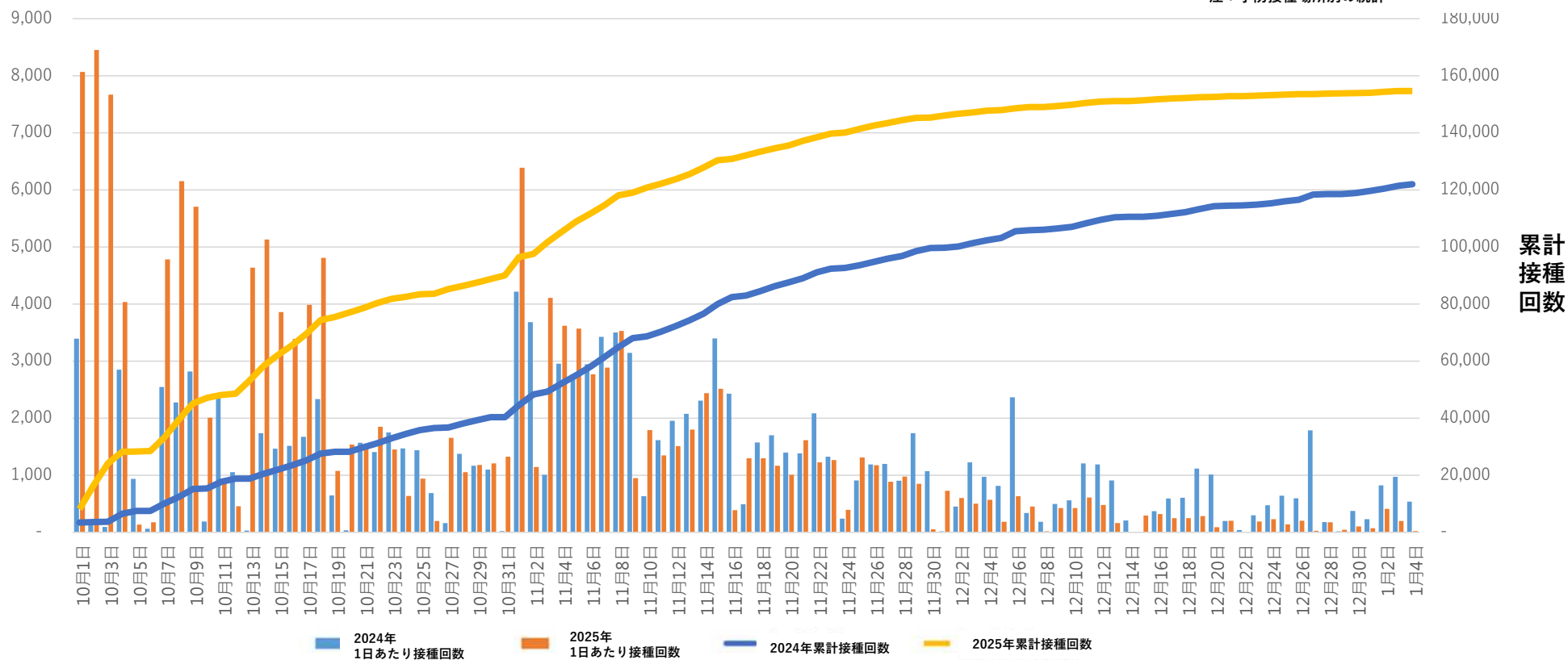


3.COVID-19ワクチン：接種実績

◆ 台北市では、インフルエンザワクチンとの同時接種プログラムにより、2025年10月から2026年1月4日までの間にCOVID-19の予防接種数が前年比で**26.8%増加**した。

COVID-19予防接種の年次比較（2024年と2025年の比較）

注：予防接種場所別の統計



4.肺炎球菌ワクチン：対象集団と予防接種の原則

対象者



65歳以上の高齢者



55歳から64歳の先住民



19歳から64歳のIPD高
リスク者



以前の方針：PCV13 プラス PPV23

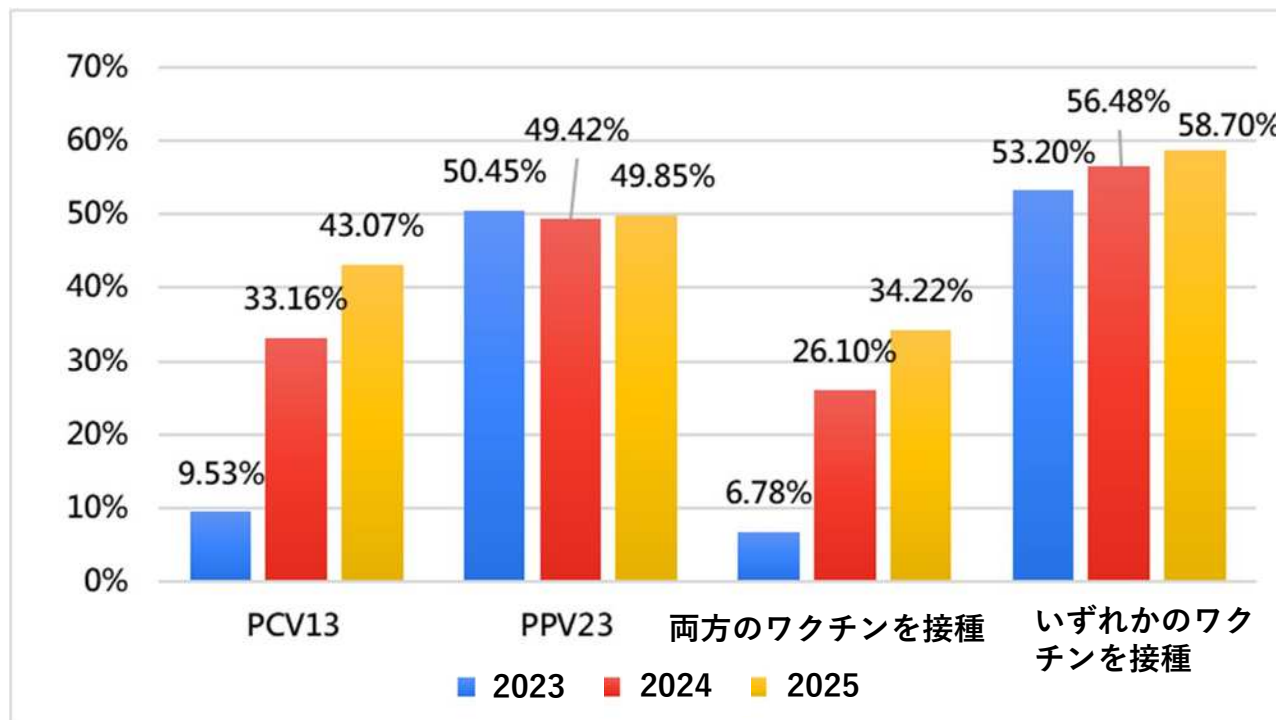
新たな公費負担 ワクチン



PCV20を1回投与

4.肺炎球菌ワクチン：結果

- 高齢者の予防接種率は大幅に向上した。2025年時点で、65歳以上の住民におけるPCV13とPPV23の接種率はそれぞれ43.07%と49.85%で、2回接種率は34.22%。



5. ロタウイルスワクチン

2017年のプログラム開始から2025年12月末までに、累計で28万回以上の公費助成対象の接種が実施された。



15万人以上

予防接種を受けた乳幼児

このプログラムにより、多くの新生児をロタウイルスの脅威から守ることができた。



全体の平均予防接種率

対象となる乳幼児の4分の3以上が、予防接種を完了している。

76.95%

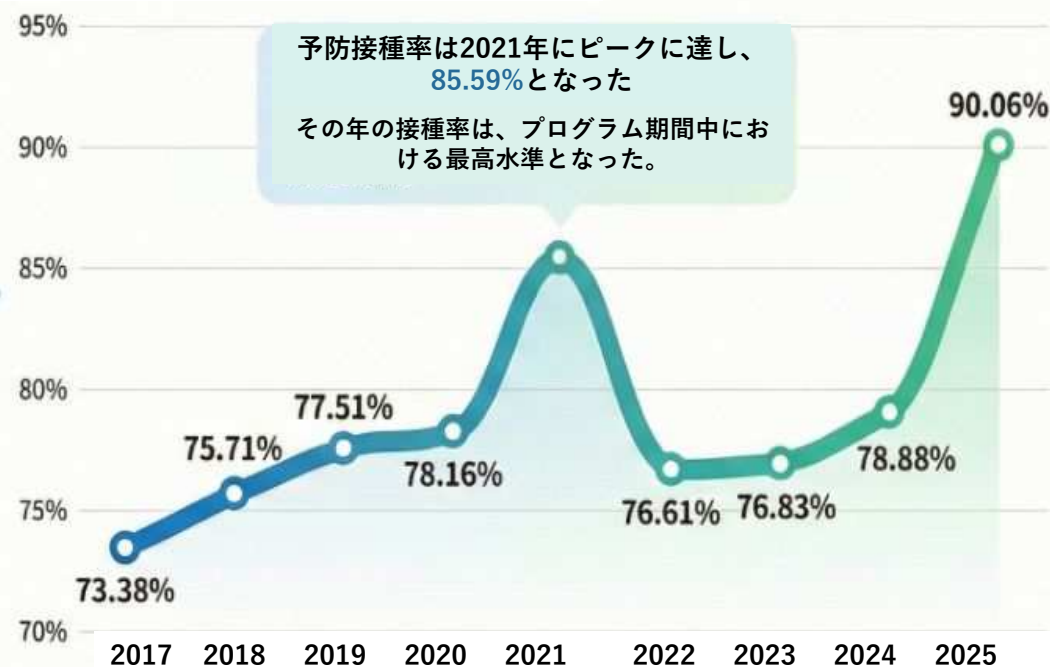
28万回以上

総接種回数

予防接種プログラムの広範な対象範囲と運用規模を反映している。



年間予防接種の推移



6. エンテロウイルス71ワクチン：施策と普及促進



📅 実施期間

2024年6月17日より開始

3回目の接種に対する補助金導入
2025年から



補助金の受給資格

台北市児童医療補助金第2類の対象となる、
生後2ヶ月から6歳未満の乳幼児。



補助金の内容

台北市の契約医療機関では、対象となる小児の
エンテロウイルス71に対する**予防接種**費用が全額補助される。

公式ウェブ
サイトでの広報

補助金プログラムの詳細、よくある質問、ポスター、
パンフレット、その他の広報物などが含まれる。



補助対象	受給資格	実施状況	回数
出生後2週間 至未滿6歳	新住民 新移民 原住民族	區公所 衛生局	2回以上
補助対象	費用負担	補助金額	補助金額
出生後2週間 至未滿6歳	2回 費用負担	2回 補助金額	2回 補助金額
接種施設	補助金額	補助金額	補助金額



6.エンテロウイルス71ワクチン：補助金の実績

補助対象接種回数
2024年

696

1回目：395回分
2回目：301回分

補助対象接種回数
2025年

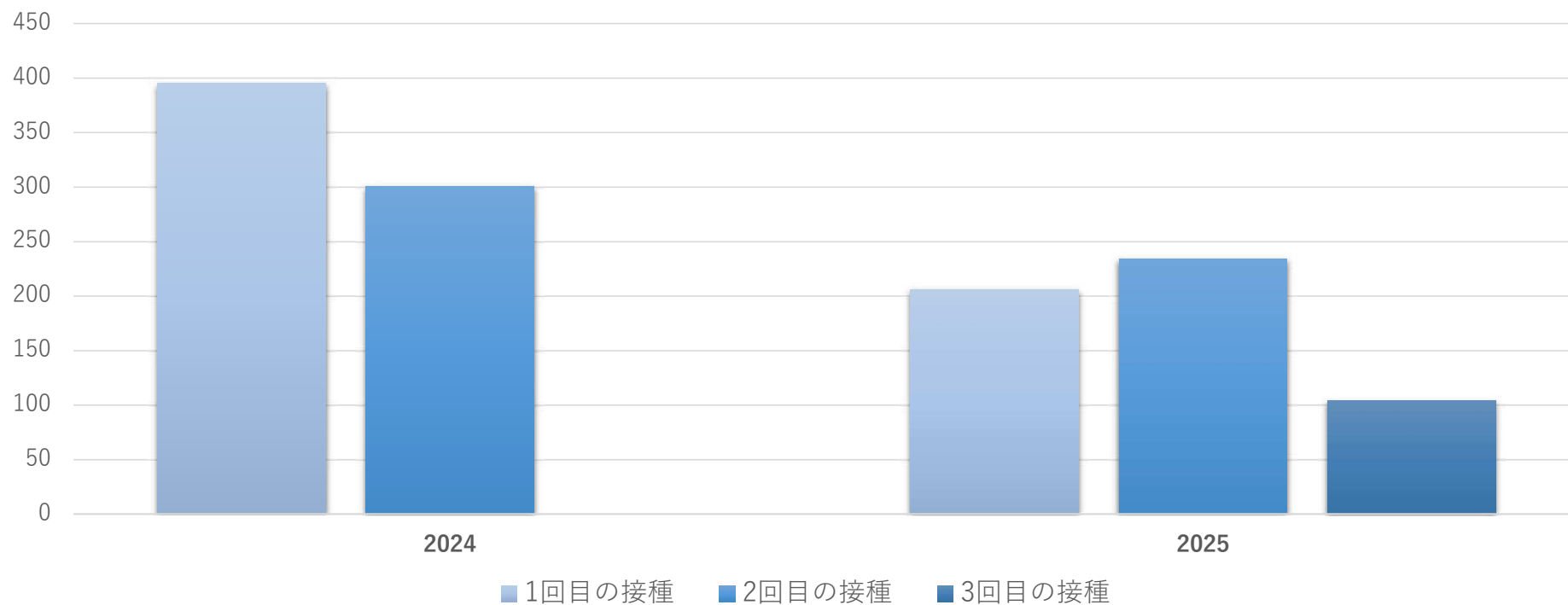
544

1回目：206回分
2回目：234回分
3回目：104回分

補助対象の総接種回数

1,240

1回目：601回分
2回目：535回分
3回目：104回分



7.帯状疱疹ワクチン：実施計画

施策の根拠

帯状疱疹は、高齢者や免疫機能が低下した人に多く見られる。市民である高齢者の健康状態を改善するため、低所得の高齢者を対象にワクチン費用を補助する。

実施期間

2025年9月1日から

対象者



以下の3つの条件を満たす台北市の市民：

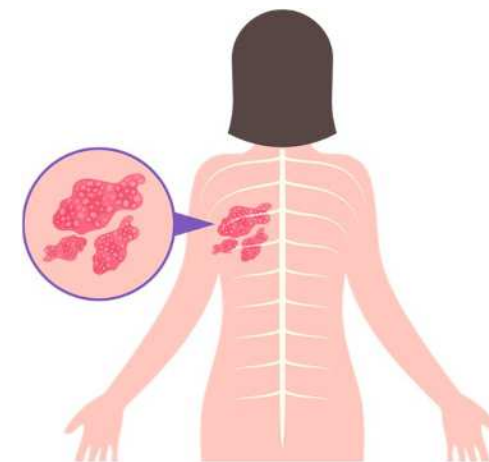
- ☑55歳以上の先住民、または65歳以上の高齢者
- ☑低所得または中低所得世帯
- ☑免疫不全症（無脾症またはHIV感染者に限る）または重篤な疾患に罹患

補助金の内容

帯状疱疹ワクチン（シングリックス、GSK）2回接種分を全額補助

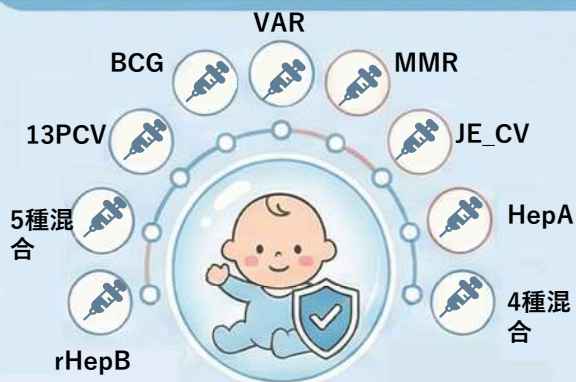
ワクチン接種場所

台北市立病院の8院区



まとめ：台北市における予防接種プログラムの成果

小児定期予防接種：すべての赤ちゃんの健康なスタート



公費ワクチン9種
合計19回接種

スマートSMSシステム
予約日の7日前に自動SMSリマインダーが送信される

プロアクティブなケアシステム
支援が必要な子どもたちや、複数回の勧奨後も未接種状態が続く子どもたちへの積極的なケア

予防接種のための追加補助金

中央政府補助金：200台湾ドル
+ 台北市政府補助金：100台湾ドル

補助金総額：300台湾ドル（1回あたり）

3歳未満児の予防接種率：97.89%

6歳未満児の予防接種率：97.45%

衛生福利部より 優秀賞を受賞

肺炎球菌ワクチン



対象集団に向けた確かな感染予防
2025年時点で、65歳以上の住民におけるPCV13とPPV23の接種率はそれぞれ43.07%と49.85%で、2回接種率は34.22%であった。

インフルエンザワクチン：保護対象の段階的展開



左腕にインフルエンザワクチン、右腕に新型コロナウイルスワクチンを接種することで、二重の防御を提供する



学内接種会場：297回



地域接種会場：753回



デジタル変革による効率性の向上
紙ベースの記録媒体に代わり、タブレットやカードリーダーを使用して待ち時間を短縮

第1段階
(10月1日から)

65歳以上の高齢者、医療従事者、妊婦、学生、幼児など

第2段階
(11月1日から)

高リスク因子のない50~64歳の成人

2026年1月までに78万回分以上を接種。
ワクチン接種率は98.53%に達する

COVID-19ワクチン：ポストパンデミックにおけるリスク重視の戦略



インフルエンザワクチンと新型コロナウイルスワクチンは、同日に接種ワクチンの選択：12歳以上はモデルナまたはノババックス、生後6か月から11歳の子供はモデルナのみ

接種対象を一般市民に拡大

2026年1月~2月

春節の旅行ラッシュに対応し、接種対象を「生後6ヶ月以上のすべての人」に拡大

多様な普及戦略：接種疲れの克服



ポッドキャスト



動画



ゴミ収集車による広報アナウンス



MRT広告



くじ引き大会を3回実施（当選者449名）
予防接種への意欲を高めるため

まとめ：台北市の3大ワクチン補助金政策

幼児の保護：

ロタウイルスおよびエンテロウイルス71ワクチン

90%

対象者：生後6週から32週までの乳児

ロタウイルスワクチン：接種率が90%を超えた

2017年のプログラム開始以来、累計27万9千回の接種が行われた



低所得世帯の幼児を対象に、エンテロウイルス71ワクチンの費用を全額補助

生後2か月から6歳までの低所得世帯の子どもへの全額補助（1回あたり最大4,300台湾ドル）



1,240回分
(2025年現在)

2つの主要な小児用ワクチンの累計接種回数は28万回を超える
定額補助と全額補助により、家庭における医療費や入院費の経済的負担が効果的に軽減された

低所得の高齢者の保護：
带状疱疹ワクチン



高リスク・低所得の高齢者に対する的確な補助金制度

対象者：65歳以上（先住民は55歳以上）の低所得者または中低所得者で、免疫機能が低下している人

台北市立病院の8分院で、2回接種分の全額補助が利用可能

2025年9月より、対象者は台北市立病院で2回の接種を受けることができる



2025年末時点で47人が初回接種を受けており、接種者数は着実な増加を示している



ご清聴ありがとうございました

